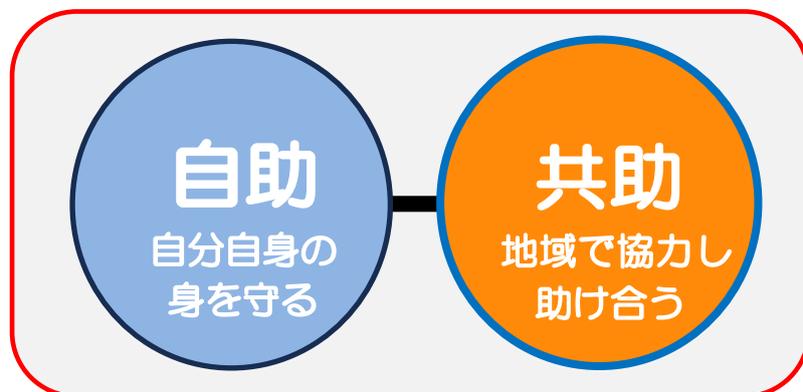


あさひが丘自主防災マニュアル

(案)

～地域住民の力による防災～



令和7年4月

あさひが丘自治会自主防災組織連絡協議会
(自主防災マニュアル作成委員会)

目 次

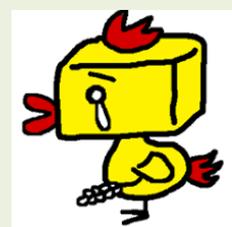
はじめに	3
1. 防災体制	4
(1) 組織の名称.....	4
(2) 地区の状況.....	4
(3) 避難場所及び避難所.....	4
2. 想定される災害	5
(1) 洪水（台風や集中豪雨）	5
(2) 地震（内陸活断層型）	5
(3) 火山の噴火	5
(4) 山火事.....	5
(5) 火災.....	5
(6) ブラックアウト	5
(7) 〔参考〕想定される災害の評価表.....	6
3. 地震に対する備え.....	7
(1) 家具の転倒防止.....	7
(2) 飲料水・食料の備蓄.....	7
(3) トイレ用水の備蓄（風呂の残り湯 etc）	7
(4) 災害用簡易トイレ、トイレットペーパーおよび常備薬などの日用品の備蓄.....	7
(5) 安否確認伝達手段の確保、避難経路の確認.....	7
(6) 停電対策	7
(7) その他	7
4. 火災に対する備え.....	7
(1) 放火対策	7
(2) コンロから離れない.....	8
(3) 寝たばこ、ポイ捨て禁止	8
(4) 子供の火遊び.....	8
(5) ストーブまわりの整理.....	8
(6) 電気配線	8
(7) 強風時のたき火禁止.....	8
(8) 家庭用消火器の設置.....	8
5. 「自助」の流れ	8
6. 「共助」流れ.....	8
〔参考資料〕 在宅避難とは.....	10

はじめに

自主防災活動は、地域住民による自主的な防災活動であり、住んでいる地域を住民自らが主体的に「安全で住みやすい、災害につよいまち」にするための活動です。大規模な災害が起きたときには、電話が不通になったり、道路網・電気・ガス・水道施設などが寸断され、消防などの防災関連機関の活動が制限されることが予想されます。こうした被害を最小限におさえるためには、まず、自分の身は自分で守るという「自助」の考え方や行動が大切です。その次に、地域の住民が支え合い、助け合う「共助」の考え方や行動が重要になります。地域を守ることが、すなわち自分を守ることにつながります。

自助・共助の活動を、緊急時に地域で円滑かつ迅速に実施するには、活動内容や手順などをあらかじめ地域で話し合い、「自主防災マニュアル」として決めておくことが必要です。

あさひが丘自治会自主防災組織連絡協議会



1. 防災体制

(1) 組織の名称 あさひが丘自治会 自主防災組織

(2) 地区の状況 世帯数 640 世帯

(3) 避難場所及び避難所

・江別市が開設する避難所

① 地震の場合の避難所

順位	区分	名称	住所
第1順位	社会教育施設	東野幌体育館	東野幌町 28-23
第2順位	主に小学校	東野幌小学校	東野幌町 48
第3順位	中学校	野幌中学校	西野幌 92-3

注) 地震発生時は、被害状況や避難者数に応じ段階的に開設します。

開錠：避難所の門の開錠、施設内及び施設周辺の安全点検、避難者の受入れ準備（避難スペースの確保等）

開設：避難者の受入れ（誘導・収容・避難者数把握）、受付・避難所看板（案内板）設置、備蓄物資等の準備

運営：運営委員会を設置し、班ごとの役割実施

注. 地震の場合、自宅の倒壊、火災の影響がなければ無理に避難せず、自宅で生活すること（在宅避難）を基本とする。（5頁 2-(2)地震における避難の考え方、10頁 「在宅避難とは」参照）

② 洪水の場合の避難所

あさひが丘自治会区域は対象外です

2. 想定される災害

まず、「あさひが丘自治会」に想定されるあらゆる災害を考えてみましょう

(1) 洪水（台風や集中豪雨）

- ① 海（石狩湾）から 23.5km、千歳川から 3km 離れている
- ② 標高が 20.6m と比較的高い
- ③ 雨水調整池が完備されている

津波や川の氾濫およびゲリラ豪雨などによる洪水の可能性は低いと考えます

(2) 地震（内陸活断層型）

江別市では北海道地域防災計画 地震・津波防災計画編（2021 年 11 月）において公表されている想定地震のうち、江別市で震度が最大になるとされる 2 つの内陸活断層型の地震を想定しています。

No.	想定地震の名称	最大震度
1	月寒背斜に関連する断層の地震（内陸活断層型）	6弱～7
2	野幌丘陵断層帯の地震（内陸活断層型）	6弱～7

あさひが丘で想定される地震はいずれも最大震度 6 強程度で建物被害確率は 0～5% となっています。

・地震時における避難の考え方

〔参考〕

※あさひが丘自治会内の家屋は平成 6 年(1994 年)以降に建てられたもので、新耐震基準（1981/6/1 以降の確認申請）であり震度 6 強～7 程度の地震では倒壊しないレベルであることから、殆どの家屋の耐震対策は不要と考えられます。

従って、あさひが丘自治会の避難方法は「在宅避難」を第一に考えることとする。

（在宅避難については 10 ページ参照）

(3) 火山の噴火・・・火山がないので想定外

(4) 山火事・・・山がないので想定外

(5) 火災・・・人災としての火災は想定しなければなりません

(6) ブラックアウト・過去の例から停電は想定しなければなりません

想定される災害は以下の通りです

- ・自然災害・・・地震
- ・人災・・・火災
- ・ブラックアウト・・・停電

(7)〔参考〕想定される災害の評価表（一覧表）

(大項目)		(中項目)	可能性	家の損壊	家具転倒	上水断水	下水断水	停電
自然災害	風水害 (台風、集中豪雨)	暴風	○	△	×	×	×	○
		竜巻	△	△	△	△	△	△
		豪雨	○	×	×	×	×	○
		豪雪	○	△	×	×	×	○
		洪水	×					
		崖崩れ	×					
		土石流	×					
		高潮	×					
	地震	地震	○	○	○	○	○	○
		津波	×					
		土砂災害	×					
	火山の噴火	大きな噴石	×					
		火山灰	×					
		火砕流	×					
		土石流	×					
		火山泥流	×					
		溶岩流	×					
		火山ガス	×					
		火災	×					
	山火事	火災	×					
対策			耐震対策		飲水備蓄	用水備蓄	停電対策	
人災	火災	火災	○	○	×	×	×	○
	ブラックアウト	停電	○	×	×	×	×	○
	対策	優先 第1		火災予防				停電対策
		優先 第2		初期消火				
優先 第3			耐火対策					

3. 地震に対する備え

あさひが丘自治会自主防災組織エリアは在宅避難を第一に考えることから、以下の対策を重点的に実施する

- (1) 家具の転倒防止
 - ・家具転倒防止伸縮棒、転倒防止粘着マット、転倒防止ベルト、L字金具などで耐震対策
- (2) 飲料水・食料の備蓄
 - ① 一人当たり3ℓ/日で計算した量を人数分、最低7日分、ローリングストックする
 - ② 備蓄食料は一人当たり3食/日で計算した量を、最低7日分をローリングストックする
 - ③ 停電対策を実施している場合は冷蔵庫の食料をそのまま使えるので、通常的生活と同じように送る。
- (3) トイレ用水の備蓄
 - ① 風呂の残り湯などの確保（日頃から入浴後の残り湯は次回まで湯船に残しておく）
- (4) その他のトイレ対策
 - ① 災害用トイレの準備（上水道の断水や、下水道が使用不可能になった場合のため、固めて捨てることのできる災害用トイレを備蓄しておく）
 - ② トイレットペーパーの備蓄
- (5) 安否確認伝達手段の確保等
 - ① NTTの171（災害用伝言ダイヤル）の利用方法などを、事前に家族で決めておくと安心です。（伝言の共通電話番号を決めておきましょう）
- (6) 停電対策
 - ① 太陽光発電、蓄電池システム、発電発電機、ポータブル電源など自分で用意できるものを事前に用意しておく
 - ② 停電が長期化しそうな場合は自立電源に切り替える
 - ③ 避難時はブレーカーを落とす
- (7) その他
 - ① 常備薬など人用品の備蓄
 - ② 持病に関わる処方薬の管理

4.火災に対する備え

- (1) 放火対策
 - ① 家のまわりに燃えやすい物を置かないこと
 - ② 車庫、物置などの戸締まりも忘れずに
- (2) コンロから離れない
 - ① 火がついているコンロから離れるときは必ず消すこと
 - ② コンロの周りに可燃物は置かない
- (3) 寝たばこ、ポイ捨て禁止
 - ① 吸い殻を捨てるときは必ず水にさらす
 - ② 火のついたタバコは必ず消火の確認をする
- (4) 子供の火遊び
 - ① 子供には火の正しい使い方、恐ろしさを教えましょう
- (5) ストープ周りの整理 4
 - ① ストープの周りに可燃物を近づけない
 - ② 近くで洗濯物を干すのも厳禁
 - ③ 給油は完全に火を消してから（ポータブルストーブの場合）
- (6) 電気配線
 - ① コードの上に物を載せたり、コードをまとめたり、たこ足配線をしない
 - ② 定期的にコンセント周りや配線を掃除する
- (7) 強風時のたき火禁止
 - ① 強風時や乾燥注意報時の「たき火」は危険ですので厳禁です
 - ② 通常時でも必ず水を用意し、完全消火の確認をする
- (8) 家庭用消火器の設置
 - ① 火災の被害を最小限にするため「消火器」を備えましょう

5.「自助」の流れ

- (1) 想定される災害と、それに対する対策の洗い出し (Plan [計画])
- (2) 抽出された対策の実行 (Do [実行])
- (3) 実行された対策の確認 (Check [評価])
- (4) 実行されていない対策の洗い出し (Action [改善])

※PDCA を繰り返します

6. 「共助」の流れ

- 
- (1) 高齢者、障害者などの避難行動要支援者の把握（Plan〔計画〕）
 - (2) 避難行動要支援者の避難支援者の割り当て作成（Do〔実行〕）
 - (3) 防災訓練の実施、確認（Check〔評価〕）
 - (4) 問題点の洗い出し（Action〔改善〕）

【主な共助の取組】

- 日頃から顔のみえる関係づくり
- 近所の助け合い
- 自主防災活動への参加
- 地域の防災訓練

・在宅避難とは

〔参考〕

在宅避難とは、災害が発生した際に、自宅で身の安全が確保できる場合に、避難所に向かわずに自宅で過ごす方法です。

【在宅避難のメリット】

- 住み慣れた家で生活できるため、ストレスや感染症の心配が少ない
- ペットと一緒にいられる
- トイレをはじめ人としての尊厳が守られる

【在宅避難の備え】

- 1週間分の食料・飲料水、カセットコンロなどの燃料、簡易トイレなどの備蓄をしておく
- 家具の固定やガラスの飛散防止を行う
- 非常用電源（簡易型ソーラーパネル）などを準備する
- 衛生用品（消毒用アルコール、マスク、石鹸、体温計など）を確保する

【在宅避難の注意点】

- 危険を感じた場合は、直ちに避難場所や避難所へ避難する
- 最新の気象情報や避難情報を入手するようにする
- ボランティアや支援団体などから支援を受けられるので、災害ボランティアセンターに相談する
- 避難所や役所の掲示板などでも支援情報が掲載されている
- 都道府県独自の支援もあるので、市区町村だけでなく都道府県の Web サイト・SNS も確認する

【在宅避難の判断】

- 自宅が倒壊、火災していなければ在宅避難をするのも 1 つの選択肢
- 避難所は三密となりやすく感染リスクが上がります